

家庭で起こる水の事故に気をつけましょう。

子どもは、たった数cmの深さの水でも溺れることがあります。浴槽、トイレ、洗濯機、水のたまっている場所はどこも要注意です。

子どもは水が危ないという意識はありません。子どもが溺れるときは、静かに溺水することが多いとされています。沈んで息を吸ってしまうと窒息する可能性があります。また、浴槽の外で遊ばせていて玩具などをとろうとして頭から転落することもあります。子どもは、頭が大きいので頭から転落しやすいです。

溺れたときに、親はパニックになりやすいので、落ち着いて救助し、意識がなければ救命措置が必要となります。

<事故を防ぐため防止対策が重要となります>

- ①お風呂場やトイレのドアは、閉めておく。
- ②浴槽に子どもがいる場合には、目を離さない。
- ③プール遊びの際には、一人にさせない。目を離さない。
- ④洗濯機の蓋はしめておく。

もしも、乳幼児が溺れてしまったら、早く水・お湯から引きあげましょう。

- 1、平らな場所に寝かせる。
- 2、意識があるか確認する。
- 3、意識がない場合には、人を呼び救急車の要請。
- 4、心臓マッサージと人工呼吸の実施。

<意識があるかを確認する方法>

- ・耳元で名前を呼び掛けて反応があるか。
(呼びかけにも、刺激にも反応がない場合には、反応なしと判断します。
何らかの反応があったとしても応答できない、正しく反応できない場合は、意識に障害があると判断できます)
- ・肩(鎖骨のあたり)を軽くたたいて身体が反応するか。
- ・意識のない場合や意識がはっきりしない場合には、舌の根元が落ち喉をふさいだり、吐いたものを詰まらせたりすることがあります。
飲食物を、与えるのはやめましょう。
- ・意識があれば、本人の楽な姿勢をとらせませす。衣類をゆるめて、圧迫感のないようにしましょう。

<正常に呼吸をしているか確認する方法>

- ・胸とお腹が上下に動いているか。
(胸やお腹に動きがなければ、呼吸なしと判断します)
- ・息を吸ったり吐いたりする音がおかしくないか。
(息をしていても、ゴロゴロ・ヒューヒュー異音がある場合には、気道確保が必要です)
- ・口元で吐く息を感じるか。